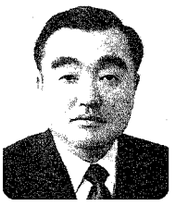
30周年を迎えました

市民の大学 開かれた大学として

都留市長　都倉昭二



市民とともに歩んでまいりました都留文科大学は、今年三十周年を迎えました。

本学は、昭和二十八年に山梨県立臨時教員養成所として設立され、市立都留短期大学を経て昭和三十五年四月、学園都市の建設という遠大な思想のもとに四年制の都留文科大学として発足しました。

以来、文教都市としての伝統を背景とし、歴代の大学関係者のご尽力と市民の皆さまのご支援をいただく中で、現在まで一万三千余名の有能な人材を全国に送りだし大きく成長してまいりました。

大学三十年の軌跡を踏まえ、さらに発展・充実を期する意味から、この度創立三十周年記念事業を計画いたしました。

十月十四日に記念式典、学生による全国の「県木」記念植樹等を催し、十一月四日には学生、同窓生、市民の皆さまの参加を得てシンポジウムを予定しております。

三十周年を契機に、さらに地域に根差した「市民の大学・開かれた大学」として、また、豊かな個性を生かした特色ある大学として成長するよう、市民の皆さまのご協力をお願いいたします。

三十周年を迎えて

都留文科大学長　上田　薫

皆さまのお力ぞえによって、本学がつつがなく三十周年を迎えましたことに対し心からお礼を申し上げます。今日に至るまでの歴史を顧みると、まことに感慨の深いものがあります。富士山麓の一角に徒手空拳、今や全国的に高く評価されている大学が誕生し成長しえたことは、心ある人びとに驚異の眼をみはらせるほどの快事で、市民の皆さまと大きく喜びをともにしたいと考えます。

周知のように数年あとには、大学はかつてないほどの苦難の時期を迎えます。いっそう輝かしく四十周年の日を祝えるように、大学にある者はこれから層一層の努力を重ねてまいります。市民の皆さまにもどうか物心両面において、力強いご援助をいただけるよう、この際とくとお願い申し上げるしだいです。

成るは難く崩れるは易いと申します。大学のすこやかな発展により、それを核とする都留市と市民の生活が、ますます充実していくことを願ってやみません。

記念行事のお知らせ

都留文科大学の意義ある歴史をふり返り将来への飛躍を願って、創立三十周年記念行事が開催されます。

市民の皆さまには、記念講演会に多数のご出席をお願いいたします。

○　記念植樹

日時　10月14日（土）午前10時

場所　楽山球場ゲート付近

「全国ふるさとの森」と命名し、各県出身の在学生が「県木」を持ち寄り植樹します。

○　新研究講義棟落成式

日時　10月14日（土）午後12時30分

場所　大学新研究講義棟大講義室

新研究講義棟は、鉄筋コンクリート造六階建床面積二五二六、〇九㎡で、コンピューター室、視聴覚演習室、講義室、資料室等を備えた近代的な建物です。

○　大学創立三十周年記念式典

日時　10月14日（土）午後1時30分

場所　大学新研究講義棟大講義室

○　記念講演会

日時　10月14日（土）

午後2時30分～4時

場所　大学新研究講義棟大講義室

講師　永井道雄氏（元文部大臣）

演題　「社会変化と教育」

○　シンポジウム

日時　11月4日（土）午後1時

場所　大学新研究講義棟大講義室

テーマ　「あなたにとって都留文科大学とは」

―学生から市民へ、市民から学生へ―

大学の歴史

S28・4・1	山梨県南都留郡谷村町上谷二六四番地に山梨県立臨時教員養成所（一年制）として設立　定員五十名
S29・4・29	都留市制施行
S30・4・1	都留市上谷二六四番地に市立都留短期大学創立 初等教育科定員五十名 商経科定員五十名
S35・4・1	市立都留文科大学（四年制）となる 文学部初等教育学科定員五十名 国文学科定員三十名
S38・4・1	初等教育学科定員百名に変更 英文学科増設定員五十名
S41・4・1	初等教育学科定員百六十名に変更 国文学科定員六十名に変更 英文学科定員八十名に変更
S41・8・31	上谷一六六六番地（現住所田原三―八―一）に校舎移転
S46・4・1	初等教育学科定員二百名に変更 国文学科定員百名に変更 英文学科定員百名に変更
S62・4・1	社会学科増設定員六十名